

鹿 行 地 域

目 次

1	市町村の特色	
	(1) 地域特性及び地域資源	39
	(2) 特色を活かした具体的な取り組み	40
2	現行の基本計画に関する取り組み状況と今後の重点施策	
	(1) 活力あるいばらきづくり	42
	(2) 住みよいいばらきづくり	44
	(3) 人が輝くいばらきづくり	46
3	将来像	48
4	広域連携	50
5	新しい県総合計画の策定に関する意見・要望など	51

1 市町村の特色

(1) 地域特性及び地域資源

各市町村が自らの地域特性や地域資源の優れている点について、どう捉えているのかを確認した結果、最も多い回答は表3-1に示すとおり「自然環境」で、鹿行地域内5市町村のうち4市町村(80.0%)が選択した。次いで「地場産業」が3市町村(60.0%)、「文化・スポーツ施設や活動」、「農林水産業」が2市町村(40.0%)と続く。

「自然環境」が最も回答を集めた理由としては、雄大な海岸線を誇る『鹿島灘』、水郷筑波国定公園に指定されている『霞ヶ浦』や『北浦』、さらには『利根川』や『酒沼』といった水辺空間に恵まれていることがあげられる。

次に回答の多かった「地場産業」については、『水郷潮来』などの観光資源が充実していることに加え、地場産農産物を用いた商品開発やそのPR活動のための協議会を組織し、さらには観光物産館を建設するなど、地域資源を上手く活用した事業展開を進めていることがあげられる。

一方、「郷土色・工芸」、「良好な住宅や住宅地」、「福祉施設」、「医療機関」、「教育機関・教育環境」、「近隣交通や広域交通の利便性」、「住民参加」に対する回答は皆無であった。

これらの結果を整理すると、鹿行地域の特徴は次のとおりとなる。

【優れている点】

- 水辺空間を中心とした「自然環境」に恵まれており、それら環境を交流・観光事業に上手く活用している。

「自然環境」を地場産農産物にも連動させ、さらなる地域活性化を目指した事業展開を行っている。

(2) 特色を活かした具体的な取り組み

以上のような地域特性及び地域資源のうち、具体的な取り組みとして特徴的な内容は次のとおりである。

①自然環境を活かした施策

鹿行地域における全県レベルの観光資源としては、『鹿島灘』、『霞ヶ浦』、『北浦』をはじめとする豊かな水辺環境を有し、鹿嶋市において海水浴場の整備・開設してビーチバレー、ビーチサッカーなどのイベント開催を模索している段階にある。また潮来市では、『水郷(前川あやめ園)』にてあやめまつりやサップ船による十二橋めぐり、ボートレガッタ大会など各種イベントを5月下旬から6月下旬にかけて開催している。さらに神栖市では、これまで観光事業に力を入れてこなかったが、自市の自然環境に注目して海水浴場(日川浜・波崎海岸)を開設したり、神之池緑地公園の整備をしたりしている。行方市においては、霞ヶ浦を活かした事業として、かつて漁に使われた帆引き船を観光船として復活・運行している。

②地場産業を活かした施策

潮来市では、前述のまつり開催に加え、広域連携による水郷三都(千葉県香取市、鹿嶋市、潮来市)などの観光振興を実践し、交流人口の拡大を図っている。銚田市では、地場の農産物を使った商品開発とあわせて、平成21年度から協議会を立ち上げて内外へのPR活動を進め、特産品の高付加価値化を目指しているほか、最終加工品のみでなく加工原料としてパウダー、ピューレなどの一次加工品を生産して業務用ニーズにも応えようとしている。また行方市では、地場の農産物の販路兼PR場所として『観光物産館こいこい』を開設し、地域の活性化につなげている。

表3-1 市町村の地域特性および地域資源（鹿行地域）

	上段:件数 下段:構成比 鹿行地域 (n=5)
自然環境	4 80.0
歴史・文化環境	1 20.0
郷土色・工芸	0 0.0
生活環境施設	1 20.0
文化・スポーツ施設や活動	2 40.0
良好な住宅や住宅地	0 0.0
福祉施設	0 0.0
医療機関	0 0.0
農林水産業	2 40.0
商業、流通・サービス業	1 20.0
工業・技術開発産業の立地	1 20.0
地場産業	3 60.0
教育機関・教育環境	0 0.0
近隣交通や広域交通の利便性	0 0.0
住民参加	0 0.0
その他	0 0.0

注:1)設問では3つ選択だが、3つ以上選択する回答者もあり、その分もあわせて集計。

2)複数回答であるため、各項目の構成比の総和は100を越える。

2 現行の基本計画に関する取り組み状況と今後の重点施策

(1) 活力あるいばらきづくり

現行の基本計画に関して自市（町・村）での取り組み状況が不十分であると思われる施策を確認したところ、最も多い回答は「雇用・就業環境の整備」で、鹿行地域内5市町村のうち3市町村（60.0%）が選択した。次いで「産業拠点の競争力向上と企業立地の促進」、「ものづくり産業の育成」、「ベンチャー企業の育成と新たな事業展開への支援」、「魅力ある商業・サービス産業の育成」、「力強い水産業の確立と水産物の安定供給」、「農山漁村の活性化」、「百里飛行場の早期開港と利活用の促進」が2市町村（40.0%）となった。また、県全体の施策展開について不十分な施策では、「魅力ある商業・サービス産業の育成」、「広域的な幹線道路網の整備」、「安全で使いやすい港づくり」、「“いばらき”の情報発信力の強化」が2市町村（40.0%）で最も多い結果となった。

一方、今後、自市（町・村）において県が重点を置いてほしい施策を確認したところ、「地域資源のブランド化」が4市町村（80.0%）で最も多く、次いで「産業拠点の競争力向上と企業立地の促進」、「地場産業・特産品の育成」、「競争力ある産地の育成と販売力の強化」が3市町村（60.0%）となった。さらに、新しい県計画を策定するにあたって県全体で重点を置いてほしい施策では、「産業拠点の競争力向上と企業立地の促進」が4市町村（80.0%）で最も多く、次いで「競争力ある産地の育成と販売力の強化」、「百里飛行場の早期開港と利活用の促進」が3市町村（60.0%）となった。

なお、県全体で重点を置いてほしい施策のうち、先の上位3施策における市町村からの主な具体的要望は次のとおりである。

【「産業拠点の競争力向上と企業立地の促進」について具体的な要望】

- 工業団地への企業誘致を行っているが、価格高の問題などもあり具体化していない。
企業に入ってもらわないと活気が維持できないので、県も誘致活動に協力してほしい。
- 県開発公社が展開する工業団地について、全区画の買収が終了していないために誘致活動が行われていない。買収が終わった区画だけでも企業誘致を進めてほしい。

【「競争力ある産地の育成と販売力の強化」について具体的な要望】

- ブランド化を進めているが、卸売市場以外の販路開拓が重要な課題となっている。県にもその開拓に協力してほしい。
JAと協力してPR活動を進めているが、効果が目に見えてこない。広く認知され、ブランド力が高まるように、県の情報発信を強化してほしい。

【「百里飛行場の早期開港と利活用の促進」について具体的な要望】

- 全国へと繋がる拠点となるので、県民にメリットがある施策構想を展開してほしい。

表3-2 取り組みが不十分な施策と今後の重点施策1（鹿行地域）

上段: 件数
下段: 構成比

【活力あるいばらき】 施策	鹿行地域 (n=5)			
	取組が不十分		今後の重点施策	
	市町村	県	市町村	県
科学技術を活かした先端産業の育成 (2項目)	1.0	0.0	0.0	0.0
研究開発と産業利用の促進	1	0	0	0
科学技術を支える社会づくり	20.0	0.0	0.0	0.0
競争力ある商工業の育成と企業立地の促進 (6項目)	1.7	0.7	1.2	0.8
産業拠点の競争力向上と企業立地の促進	2	1	3	4
ものづくり産業の育成	40.0	20.0	60.0	80.0
ベンチャー企業の育成と新たな事業展開への支援	2	0	0	0
地場産業・特産品の育成	40.0	0.0	0.0	0.0
魅力ある商業・サービス産業の育成	2	0	0	0
中小企業の経営力の強化	40.0	40.0	0.0	0.0
新鮮・安全で多様なニーズに応えられる農林水産物の産地づくり (6項目)	1.2	0.3	1.0	1.2
農業生産を支える基盤の確立	1	1	1	2
競争力ある産地の育成と販売力の強化	20.0	20.0	20.0	40.0
食を通じた生産者と消費者の信頼関係の構築	1	1	3	3
林業・木材産業の振興と健全な森林の育成	20.0	20.0	60.0	60.0
力強い水産業の確立と水産物の安定供給	0	0	1	0
農山漁村の活性化	0.0	0.0	20.0	0.0
産業を支える人材の育成と就業の促進 (2項目)	2.0	0.0	0.5	1.0
産業を支える人材の育成	1	0	0	1
雇用・就業環境の整備	20.0	0.0	0.0	20.0
人・もの・情報が活発に行き交う交流空間づくり (8項目)	0.8	0.8	1.0	1.0
広域的な幹線道路網の整備	3	0	1	1
つくばエクスプレスなど広域的な公共交通機関の充実	60.0	0.0	20.0	20.0
安全で使いやすい港づくり	0	2	0	2
百里飛行場の早期開港と利活用の促進	0.0	40.0	0.0	40.0
地域資源を活かした拠点づくりと交流の推進	2	1	1	3
魅力ある観光の推進	40.0	20.0	20.0	60.0
新たな物流体系の構築	1	0	2	0
ITを活用した交流空間づくり	20.0	0.0	40.0	0.0
いばらきブランドの確立 (2項目)	1.0	1.5	2.0	2.0
地域資源のブランド化	1	1	4	2
“いばらき”の情報発信力の強化	20.0	20.0	80.0	40.0
	1	2	0	2
	20.0	40.0	0.0	40.0

注1) 設問では5つまで選択だが、5つ以上選択する回答者もあり、その分もあわせて集計。

注2) 複数回答であるため、各項目の構成比の総和は100を越える。

(2) 住みよいいばらきづくり

現行の基本計画に関して自市（町・村）での取り組み状況が不十分であると思われる施策を確認したところ、最も多い回答は「安心して医療を受けられる体制の整備」で、鹿行地域内5市町村のうち2市町村（40.0%）が選択した。また、県全体の施策展開について不十分な施策では、「犯罪に強い地域づくり」、「生活を支える交通環境の充実」が2市町村（40.0%）で最も多い結果となった。

一方、今後、自市（町・村）において重点を置くべき施策を確認したところ、「健やかに安心して暮らせる保健・福祉サービスの充実」、「自主的・主体的な地域社会活動の推進」が3市町村（60.0%）で最も多く、次いで「社会全体で取り組む少子化対策の推進」、「生涯にわたる健康づくり」、「防災体制の確立」、「多様な自然の保全と活用」、「生活を支える交通環境の充実」が2市町村（40.0%）となった。さらに、新しい県計画を策定するにあたって県全体で重点を置いてほしい施策では、「霞ヶ浦をはじめとする湖沼環境の保全」が4市町村（80.0%）で最も多く、次いで「社会全体で取り組む少子化対策の推進」が3市町村（60.0%）となった。

なお、県全体で重点を置いてほしい施策のうち、先の上位2施策における市町村からの主な具体的要望は次のとおりである。

【「霞ヶ浦をはじめとする湖沼環境の保全」について具体的な要望】

- 市町村でも下水道整備を進めるが、市町村の枠を超えたテーマといえる。
- 広域的なテーマなので県にも環境保全施策をお願いしたい。

【「社会全体で取り組む少子化対策の推進」について具体的な要望】

- 市町村では各種無料化などの施策を独自にとっているが、全国的なテーマということもあり限界がある。県全体のテーマとして力を入れてほしい。
- 企業誘致を行うにあたって、そのバックボーンとして子育て支援が必要となるので、県に力を入れてほしい。

表3-3 取り組みが不十分な施策と今後の重点施策2（鹿行地域）

上段:件数
下段:構成比

【住みよしいばらきづくり】 施策	鹿行地域 (n=5)			
	取組が不十分		今後の重点施策	
	市町村	県	市町村	県
安心な暮らしをささえる保険・福祉・医療の充実（6項目）	0.3	0.3	1.3	1.3
社会全体で取り組む少子化対策の推進	0	1	2	3
高齢者がいきいきと暮らせる社会づくり	0.0	20.0	40.0	60.0
障害者の自立と社会参加の促進	0	0	0	1
生涯にわたる健康づくり	0.0	0.0	0.0	20.0
健やかに安心して暮らせる保健・福祉サービスの充実	0	0	0	0
安心して医療を受けられる体制の整備	0.0	0.0	0.0	0.0
	2	1	1	3
	40.0	20.0	20.0	60.0
平穏で安全に暮らせる社会づくり（7項目）	0.3	0.4	0.6	0.7
犯罪に強い地域づくり	1	2	1	2
交通安全対策の推進	20.0	40.0	20.0	40.0
安全な消費生活の確保	1	1	0	0
食の安全対策の推進	20.0	20.0	0.0	0.0
防災体制の確立	0	0	0	0
原子力安全体制の確立	0.0	0.0	0.0	0.0
県土の保全	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0
環境への負荷の少ない持続可能な社会づくり（5項目）	0.4	0.4	1.0	1.4
地球温暖化防止などの地球環境の保全	0	0	1	2
生活に身近な地域の環境の保全	0.0	0.0	20.0	40.0
霞ヶ浦をはじめとする湖沼環境の保全	0	0	0	0
資源循環と廃棄物の適正処理の推進	0.0	0.0	0.0	0.0
多様な自然の保全と活用	1	1	1	4
	20.0	20.0	20.0	80.0
快適で質の高い生活環境づくり（3項目）	0.7	0.7	1.0	0.3
美しくやさしさのあるまちづくり	1	1	1	1
生活を支える交通環境の充実	0	0	0	0
上下水道など生活衛生環境の充実	0.0	0.0	0.0	0.0
	20.0	40.0	40.0	20.0
地域社会活動の推進と世界に開かれた社会づくり（2項目）	1	0	1	0
	20.0	0.0	20.0	0.0
自主的・主体的な地域社会活動の推進	0.0	0.0	1.5	0.5
国際化の推進と多文化共生社会の形成	0	0	3	1
	0.0	0.0	60.0	20.0
	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0

注:1) 設問では5つまで選択だが、5つ以上選択する回答者もあり、その分もあわせて集計。

2) 複数回答であるため、各項目の構成比の総和は100を越える。

(3) 人が輝くいばらきづくり

現行の基本計画に関して自市（町・村）での取り組み状況が不十分であると思われる施策を確認したところ、「県民に信頼される魅力ある学校づくり」、「高等教育機関の充実と連携の促進」が、鹿行地域内5市町村のうち1市町村（20.0%）が選択した。また、県全体の施策展開について不十分な施策では、「高等教育機関の充実と連携の促進」、「一人ひとりが職業や地域で活かす能力向上への支援」が1市町村（20.0%）という結果であった。

一方、今後、自市（町・村）において重点を置くべき施策を確認したところ、「学力の向上と個性を伸ばす教育の推進」、「生涯学習を支援する学びの環境の充実と活用」が4市町村（80.0%）で最も多く、次いで「豊かな心と健康や体力をはぐくむ教育の推進」、「個性と能力が発揮できる男女共同参画の推進」、「生涯スポーツ社会の形成」が2市町村（40.0%）となった。さらに、新しい県計画を策定するにあたって県全体で重点を置いてほしい施策では、「社会全体での教育への取組」、「学力の向上と個性を伸ばす教育の推進」、「県民に信頼される魅力ある学校づくり」が3市町村（60.0%）で最も多く、次いで「高等教育機関の充実と連携の促進」が2市町村（40.0%）となった。

なお、県全体で重点を置いてほしい施策のうち、先の上位4施策における市町村からの主な具体的要望は次のとおりである。

【「社会全体での教育への取組」について具体的な要望】

- 少人数学級制を取り、足りない教員は市採用教員で手当てしている。十分な教員数が確保されるように取り組んでほしい。

【「学力の向上と個性を伸ばす教育の推進」について具体的な要望】

- 市町村でも教育には力を入れているが限界がある。県全体のテーマとして力を入れてほしい。

【「県民に信頼される魅力ある学校づくり」について具体的な要望】

- 小中学校の統合が課題となっているが、その解決は上手く進んでいない。また高校では、生徒数減少により、4～5クラス程度の編成になってしまっている。それらの解決にあたっては、県の方でリードしてほしい。

【「高等教育機関の充実と連携の促進」について具体的な要望】

- レベルの高い高等教育機関があれば、全体の学力レベル向上が期待できる。
- 高校への進学者が減少傾向にある。その解決にあたって、県も協力してほしい。

表3-4 取り組みが不十分な施策と今後の重点施策3（鹿行地域）

【人が輝くいばらきづくり】 施策	鹿行地域 (n=5)			
	取組が不十分		今後の重点施策	
	市町村	県	市町村	県
未来を担う人づくり（4項目）	0.3	0.0	2.0	2.5
社会全体での教育への取組	0	0	1	3
学力の向上と個性を伸ばす教育の推進	0.0	0.0	20.0	60.0
豊かな心と健康や体力をはぐくむ教育の推進	0	0	2	1
県民に信頼される魅力ある学校づくり	0.0	0.0	40.0	20.0
	1	0	1	3
	20.0	0.0	20.0	60.0
一人ひとりが尊重される社会づくり（2項目）	0.0	0.0	1.0	0.0
個性と能力が発揮できる男女共同参画の推進	0	0	2	0
	0.0	0.0	40.0	0.0
人権を尊重する意識の醸成	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0
個性や能力を伸ばす機会の充実と社会参画の促進（3項目）	0.3	0.7	0.3	1.0
青少年の自立と社会参加への支援	0	0	1	1
	0.0	0.0	20.0	20.0
高等教育機関の充実と連携の促進	1	1	0	2
	20.0	20.0	0.0	40.0
一人ひとりが職業や地域で活かす能力向上への支援	0	1	0	0
	0.0	20.0	0.0	0.0
学習環境の充実と文化・スポーツの振興（3項目）	0.0	0.0	2.3	0.3
生涯学習を支援する学びの環境の充実と活用	0	0	4	0
	0.0	0.0	80.0	0.0
文化芸術活動の推進と地域文化の発掘・発信	0	0	1	1
	0.0	0.0	20.0	20.0
生涯スポーツ社会の形成	0	0	2	0
	0.0	0.0	40.0	0.0

注1) 設問では5つまで選択だが、5つ以上選択する回答者もあり、その分もあわせて集計。

2) 複数回答であるため、各項目の構成比の総和は100を越える。

3 将来像

鹿行地域の市町村が、自らの地域についてどのような将来像を描いているのかを確認した結果は表3-5のとおりで、「恵まれた学校環境で子供の能力を伸ばす教育が受けられる地域」が5市町村（100.0%）で最も多く、次いで「子育ての悩みごとを相談でき、乳幼児の延長保育や学童保育が整備された地域」、「市民活動に気軽に参加でき、地域の行事が盛んで住民間の結びつきが強い地域」が3市町村（60.0%）であった。

一方、「電車、バスなど公共交通機関が身近にあり、道路が整備され移動しやすい地域」、「インターネット等の回線や、文化・スポーツ施設があり利用しやすく便利な地域」、「省エネなどの地球温暖化防止対策がとられている地域」、「生活排水が適切に処理され、河川や湖沼がきれいな地域」、「交通安全対策や原子力関連施設の安全対策がとられて安心して生活できる地域」、「商品やサービスなどへの不満や苦情について相談できる地域」、「仕事と家庭の両立が図られている地域」、「差別がなく人権が尊重され、外国人との共生社会の対応がなされている地域」、「失業の不安がなく働けるとともに、職業紹介や職業訓練が充実している地域」の9項目をあげた市町村は皆無であった。

また、県が今後どのような地域づくりに重点を置くべきか確認したところ、「身近に医療施設（医院や病院）があり、いつでも適切な診療が受けられる地域」が3市町村（60.0%）で最も多く、次いで「電車、バスなど公共交通機関が身近にあり、道路が整備され移動しやすい地域」、「省エネなどの地球温暖化防止対策がとられている地域」、「生活排水が適切に処理され、河川や湖沼がきれいな地域」、「さまざまな犯罪が少ない地域」、「自然災害などの対応がしっかりしている地域」、「失業の不安がなく働けるとともに、職業紹介や職業訓練が充実している地域」が2市町村（40.0%）となった。

そして、「大気汚染、騒音、悪臭などの公害がなく、資源ゴミがリサイクルされている地域」、「交通安全対策や原子力関連施設の安全対策がとられて安心して生活できる地域」、「商品やサービスなどへの不満や苦情について相談できる地域」、「仕事と家庭の両立が図られている地域」、「差別がなく人権が尊重され、外国人との共生社会の対応がなされている地域」、「行政に住民の要望や意見が十分取り入れられている地域」の6項目をあげた市町村は皆無であった。

なお、県が今後の地域づくりで重点を置くべき点について、市町村からの主な具体的意見は次のとおりである。

【県が今後の地域づくりで重点を置くべき具体的な意見】

- 光通信回線の環境が整備されておらず、地域格差が生じている。全県に行き渡るように力を注いでほしい。
- 子どもを家庭でみることのできない状況が増えている。保育園の時間外延長などの子育て支援環境を整備していく必要がある。

表3-5 地域の将来像と県が今後の地域づくりで重点を置くべき点（鹿行地域）

地域の将来像	鹿行地域 (n=5)	
	上段:件数 下段:構成比	
	市町村	県
身近に医療施設(医院や病院)があり、いつでも適切な診療が受けられる地域	1 20.0	3 60.0
子育ての悩みごとを相談でき、乳幼児の延長保育や学童保育が整備された地域	3 60.0	1 20.0
老後の生活に十分な保障があり、高齢者や障害児・者への支援が充実している地域	1 20.0	1 20.0
電車、バスなど公共交通機関が身近にあり、道路が整備され移動しやすい地域	0 0.0	2 40.0
インターネット等の回線や、文化・スポーツ施設があり利用しやすく便利な地域	0 0.0	1 20.0
里山など身近な自然環境が守られる地域	2 40.0	1 20.0
省エネなどの地球温暖化防止対策がとられている地域	0 0.0	2 40.0
大気汚染、騒音、悪臭などの公害がなく、資源ゴミがリサイクルされている地域	1 20.0	0 0.0
生活排水が適切に処理され、河川や湖沼がきれいな地域	0 0.0	2 40.0
さまざまな犯罪が少ない地域	2 40.0	2 40.0
交通安全対策や原子力関連施設の安全対策がとられて安心して生活できる地域	0 0.0	0 0.0
自然災害などの対応がしっかりしている地域	2 40.0	2 40.0
地元でとれた良質で、新鮮・安全な野菜や魚、加工品を食べられる地域	2 40.0	1 20.0
商品やサービスなどへの不満や苦情について相談できる地域	0 0.0	0 0.0
恵まれた学校環境で子供の能力を伸ばす教育が受けられる地域	5 100.0	1 20.0
仕事と家庭の両立が図られている地域	0 0.0	0 0.0
差別がなく人権が尊重され、外国人との共生社会の対応がなされている地域	0 0.0	0 0.0
失業の不安がなく働けるとともに、職業紹介や職業訓練が充実している地域	0 0.0	2 40.0
市民活動などに気軽に参加でき、地域の行事が盛んで住民間の結びつきが強い地域	3 60.0	1 20.0
行政に住民の要望や意見が十分取り入れられている地域	1 20.0	0 0.0

注:1)設問では5つ選択だが、5つ以上選択する回答者もあり、その分もあわせて集計。

2)複数回答であるため、各項目の構成比の総和は100を越える。

4 広域連携

中長期的な観点から市町村の地域づくりを考えた場合、広域連携の範囲と自市（町・村）が担う機能について、どのようなイメージを持っているのか確認した結果は表3-6のとおりである。

表3-6 広域連携のイメージ（鹿行地域）

		広域連携が想定される市町村	
		自市(町・村)の担う機能	
鹿行地域	鹿嶋市	神栖市、潮来市	商業機能 医療機能 スポーツ/レクリエーション機能
	潮来市	鹿嶋市、神栖市、銚田市、行方市、	居住機能 広域観光 スポーツ レクリエーション(水辺のスポーツ)広告 PR(東京方面からの来訪者を向かい入れる玄関口として東関東自動車道潮来インター周辺の活用)
		千葉県香取市	広域観光
	神栖市	銚田市、鹿嶋市、行方市、潮来市、神栖市	就労機能 スポーツレクリエーション機能
		香取市、東庄町、銚子市、神栖市	
行方市	潮来市、鹿嶋市、神栖市、銚田市	豊かな自然環境に恵まれた多様な農産物の一大産地である特徴を活かし、鹿島、神栖方面の消費者へ新鮮で安心な野菜を中心とした農作物を供給する。 鹿島などへの距離も近いことから通勤圏内として可能であり、不動産価格も都市部より安価であることから住宅供給の場所として提供できる。	

5 新しい県総合計画の策定に関する意見・要望など

今後、県が新しい県計画を策定するうえ、市町村から寄せられた意見・要望は表3-7のとおりである。

表3-7 県への意見・要望（鹿行地域）

		新県計画策定へ向けての意見・要望
鹿行地域	潮来市	現計画の十分な検証を踏まえたうえで、人口減少、少子高齢化社会の到来、社会、経済情勢の悪化など大きな変革期のなか、時代の流れを的確に捉え、速やかに対応できる計画づくりに努めていただきたい。 地域計画にあたっては、地域特性、地域資源を最大限活かすことができるものとしていただきたい。
	銚田市	県民が将来にわたり、安心して生活できるよう、労働、子育て環境、老後の保障等一貫した体制を推進して頂きたい。
	行方市	県は、県北地区に対して過疎対策やグリーンふるさと財団などを使った地域振興に力を注いでいるが、鹿行地区の中であって、特に行方地区を考えた場合、振興については程遠いように感じられる。 昔から陸の孤島と言われ、県の中央部附近でありながら、他地域から取り残されている観があるので、今回の新県計画において行方地区の振興策を盛り込んでほしい。